

令和元年度インシデント・アクシデント報告から講じた医療安全対策事例

病院	領域別	インシデント・アクシデント概要	安全対策
総合	その他	患者間違い	氏名(フルネーム)と生年月日という2つの識別子を用いて患者確認を実施するようにした。 また、院内放送やポスターを作成し、患者にも協力を求めている。
総合	療養上の世話	車椅子に取り付けていた点滴棒の固定が不十分で、搬送中に患者に接触してしまった。	車椅子用ガートル止め金具を各部署の車椅子に設置した。
総合	その他	外来トイレで緊急コールが発生した際に場所の表現の仕方にばらつきがあり、伝わりにくいため、場所の特定が難しかった。	外来トイレに通し番号を付け、緊急コール時に医療者が場所の把握をし易くなるようにした。
こころ	施設・設備	時間外に緊急入院となり、HCUで隔離処遇となった患者。病室から看護師を呼んだが、集音器のスイッチがOFFの状態であったため、すぐに対応できなかった。	集音器がある病室は、常にスイッチをONの状態にしておくよう全病棟に注意喚起した。
こころ	危険物管理	HCUで隔離処遇の患者。擦り込み式アルコール手指消毒剤(病室近くの洗面台に置いてあった病院用のポンプ式ボトル)を持ち込んで顔に塗っていた。誤飲の危険性もあった。手指消毒剤の設置についての決まりがなかった。	洗面台には、アルコール手指消毒剤は置かず、壁に固定されたポンプ式液状石鹼で手指衛生をして頂くよう全病棟で統一した。また、隔離処遇の患者の出室時の見守りについて注意喚起を行った。

<p>こころ</p>	<p>治療・処置</p>	<p>呼吸停止発見時の対応(手技)について全病棟で統一されていなかった。</p>	<p>医療部が作成した呼吸停止発見時のフロー図を、全病棟で同じ対応ができるよう、医療部と看護部協働で勉強会を開催し、手技の統一を図った。</p>
<p>こども</p>	<p>手術</p>	<p>日帰り手術が終了し、病棟看護師が手術患者待合室の家族をフルネームで呼び出し一緒に病棟に戻ろうとした。エレベーターを待っている際、家族が子供が違うことに気づく。</p>	<p>名前の呼び間違い・聞き間違い防止、個人情報保護を目的とし、手術番号バッジの使用を導入。番号での呼び出し後、患者家族に名乗ってもらう方法に変更した。</p>
<p>こども</p>	<p>薬剤</p>	<p>患者急変時の対応で、医師からロクロニウム使用の指示があったが、看護師はベクロニウムを準備した。</p>	<p>薬品の取り間違いを防ぐために、可能な部署はベクロニウムの置き薬を廃止した。ベクロニウムや他剤との識別効果を上げるために、ロクロニウムは薬剤室で専用パッケージに入れて3枚のシールとともに払い出すことにした。</p>